

第2回益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会 議事概要

- ◆開催日時 2017年11月15日 19:00～20:35
- ◆開催場所 益城町仮設庁舎議会棟2階大会議室
- ◆出席者数 出席17名、欠席1名
- ◆議事次第
 - 1 開会
 - 2 第1回検討・推進委員会の議事概要
 - 3 第1回検討・推進委員会後の検討状況
 - 4 各専門部会における検討内容
 - (1) 第1回合同専門部会
 - (2) 震災遺構の保存・活用専門部会震災記念公園専門部会
 - (3) 震災記念公園専門部会
 - (4) 防災教育専門部会
 - 5 委員討議
 - 6 検討・推進委員会の今後の流れ
 - 7 事務連絡
 - 8 閉会

◆議事要旨

第1回検討・推進委員会の議事概要（議事次第2）

- 事務局より、資料3に沿って説明

第1回検討・推進委員会後の検討状況（議事次第3）

- 事務局より、資料4に沿って、前回委員会後の検討の流れ（各会議開催の状況等）の説明

各専門部会における検討内容（議事次第4）

- (1) 第1回合同専門部会
 - 事務局より、資料5に沿って説明
- (2) 震災遺構の保存・活用専門部会
 - 震災遺構の保存・活用専門部会長より、資料7-1、7-2に沿って説明
- (3) 震災記念公園専門部会
 - 震災記念専門部会長より、資料6-1、6-2に沿って説明
- (4) 防災教育専門部会

- 防災教育専門部会長より、資料 8-1、8-2 に沿って説明

委員討議（議事次第 5）

防災教育について

- 資料 8-2 について、「学ぶ人」という欄を町内・町外で分けているが、「学ぶ人」と「教える人」という理解であっているか。
 - 資料 8-1 の裏面に、「先生徒（あるときは学ぶ人であり、あるときは教わる人）」という考え方がある。今回のマトリクスでも、その考え方を取り入れている。
- 行政（専門職）には警察や消防が入っている。防災教育を実際に進めていくにあたって、どのように連携をとるのか、また、連携をとることができるのが不安。
 - 今回の地震災害において、行政（専門職）の方々にとってもすべてが想定内だったという訳ではない。今回の地震への対応を通して、行政（専門職）の方々にも学びがあったかと思う。行政（専門職）の方々へのヒアリング調査も含めて、行政（専門職）の方々にお返しできる部分もあると考えている。また、行政（専門職）がどのような動きをしたのかを学ぶことは、住民を含む他の方々にとって学ぶ部分もある。
- 行政（専門職）との連携は、益城町だけで進めることは難しい部分もあるのでは。
 - 語り部というのは生身の人間が話すというものもあれば、デジタルで証言を集める方法もある。アーカイブは県が作成を進めているところもあるので、県が集約しているコンテンツも活用していくことで、行政（専門職）とも連携を図っていきたい。

震災遺構の保存・活用について

- 資料 7-1、7-2 について。震災遺構の保存・活用専門部会のゴールが、目次案をつくるということだが、どのような形で保存するかについては 3 月までに決めるということか。
 - 県と連携させていただくことが重要。まずは町で 28 箇所の遺構をピックアップしている。その中で、道路改修などで保存できなかったものもある。28 箇所以外にも遺すべきものがあるかもしれない。今年度中に大まかなスケジュールは決めるつもり。
- この委員会での議論とは別かもしれないが、遺構というのは危険な状態で残っているもの。住民の方は、1 日も早く生活を再建したいという思いをお持ちだろうと思う。したがって、遺構として残さないものは早く復旧して欲しいというニーズもあるかと思う。最後にまとめて決めるのではなく、1 つずつを地元の方々と協議して、早く決めるほうがいいのでは。事務的な話として、町がする工事もあれば県がする工事もある。遺構の近くを工事する際に「ここは工事してもいいのか」という質問をすることもあるかと思う。この委員会は危機管理課・生涯学習課・企画財政課の 3 課が事務局をしていると思うが、工事担当部署ともコミュニケーションをよくとっていただきたい。また、最新の状況を尋ねた際に、責任を持って回答できる担当者を町役場内に置いていただきたい。

- ぜひそのようにしたい。「益城町の皆さんのためにしている」というのが我々の基本姿勢。待ったなしで決めなければならないものは町として決めるものもあると思うし、住民の方と話し合っただけで決める必要があるものもある。一方で性急に価値判断してしまうことのないように、専門家として気をつけたい。連携させていただきたい。
- これだけは必ず遺す、というものを先に町が決めることが必要ではないか。「益城町民が主体的に」というのは分かるが、町民の方々にとっては生活再建の方が優先。したがって記憶の継承については町が主導すべき部分もあるかと思う。

資料 7-2「益城町における震災遺構保存・活用の基本方針」の基本姿勢について

- 「益城町らしさ」とはどのようなものを指しているのか。
 - 益城町の復興計画の中に市民との協働が謳われている。市町村ごとに被害の様相に特徴的なものがある。復旧・復興もそれぞれのやり方で進めることが必要。できることを粛々とやっていくことになるが、その際の工夫が重要。その源泉は「空港に近い」「農業が主幹産業」といった益城町の特徴になると考えている。校区ごとに大事にしてきたものがあるし、ひいては一人ひとりが大事にしてきたものがある。それをコミュニティの「らしさ」にして、さらに益城町の「らしさ」につなげていきたい。
 - 「益城町」全体で「らしさ」を示すのは難しいかもしれない。しかし校区単位では特徴があるし、住民の方々も愛着を持っている、というのが我々の仮説。具体的な「らしさ」は校区単位で考えて、その「らしさ」をつなげる、というのがいいのではと考えている。
- 震災遺構としてこれだけは遺そう、という町の意向が議会には届いてこない。町としての考え方を早く示していただかないと、「もう解体した」ということになるのでは、ということに不安視している。基本姿勢に「早く」「迅速に」という文言を付け加えていただきたい。
- 「基本姿勢」は事務局案のとおりで良いか。
 - 全員) 異議なし。

震災記念公園について

- 資料 5 裏面「震災記念公園専門部会」の 4 点目。「シンボリックなモニュメント公園ではなく」と書いてあるが、説明では「シンボリックなモニュメント公園『だけ』ではなく」という説明だった。どちらが正しいか。
 - 何百人・何千人が集まることができる大公園をつくることは想定していない。しかし偲ぶ・忘れないための場所は必要と考えている。

住民との協働について

- まちづくり協議会は現在何箇所できているか。
 - 現時点では 19 箇所立ち上がっている。

詳細には、飯野校区 3 箇所、広安校区 1 箇所、木山校区 5 箇所、福田校区 3 箇所、津森校区 7 箇所。勉強会を開催しており、近々立ち上がる予定であるのが飯野校区 2 箇所、広安校区 3 箇所、木山校区 1 箇所。

- 震災遺構の保存・活用専門部会からは「住民の方々との意見交換はこれから本格化させていく」という話があったが、震災記念公園部会では既に座談会を開催したとの説明もあった。これまでの座談会にはどのような方が参加していたのか。
 - 資料 6-1 の「今後における課題」の 2 点目。1 回目では校区代表 + 2~3 人の区長 + まちづくり協議会のメンバー数人の方々にご参加いただいた。
- 専門部会ごとに住民を集めるというのは、住民にとっても負荷になる。部会間でよく話し合っ、住民が集まる機会・負荷を減らしていただきたい。
 - ご指摘のとおり。まだ仮設にお住まいの方もいらっしゃる。なるべく地域の皆さまにご迷惑をお掛けしないよう、部会間で話し合い、じっくりとお話を伺えるように進めていきたい。
- はらからの会から参加している。四賢婦人についてガイドをしている。また、「益城町フットパスの会」を設立した。12 月 9 日 9:30 から飯野地区で開催する予定。そのコースの中に、断層横ズレの場所を見て回る予定。30 人を目標に人集めをしている。広報誌でも宣伝している。
 - 皆様のそのような活動すべてが「記憶の継承」事業の一環になると思っている。「あの活動は入れるけれどこの活動は入れない」ということは考えていない。様々な活動について、これからもぜひ教えていただきたい。
- まちづくり協議会がまだ全体的には立ち上がっていない。一方で住民の方々による様々な活動が動いている。どのように情報を集約して、活動していくのか。
 - 地域ごとに状況が異なる。たとえば、まちづくり協議会の立ち上げに奔走している地域もある。また、既に行政にまちづくり提案を出している地域もある。行政内においても、まちづくり協議会からの提案をどのように実現するかが煮詰まっていない部分もある。地域ごとの実情に合わせて、できた分だけやっていくしかない。すべての地域を順番に回るというよりも、ざっくりと何回かに分けて訪問したい。それぞれのコミュニティの事情に合わせて進めていきたい。基本姿勢を認めていただいたので、これに基づいて進めていきたい。
 - 震災記念公園部会では、これまでに飯野・福田・津森の方々との意見交換を行った。議論の出発は記憶の継承のあり方、震災記念公園のあり方だったが、議論を進めていくうちに、各地域の復興計画のような議論になっていった。まちづくり協議会が立ち上がっていないと議論できないということにはしたくない。「まちづくり協議会の立ち上げ」と「我々との意見交換」の順番が後先になっても構わない。我々との意見交換をまちづくり協議会の提案に反映いただくということがあってもよいと考えている。

- 1月25日に淡路島の語り部の方々がテクノ仮設に来る。
- 2月9・10日に語り部研修に行く。
- 2月25日から南三陸で「全国語り部シンポジウム」があるので参加する。
 - 住民の方々のこのような動きに関する情報を行政がどのように収集するかについて、事務局はよく考えていただきたい。

今後の進め方

- この委員会での取り組みをまとめるのは、難易度としても作業量としても、大変な作業になるかと思う。しかし一つひとつの成果が目に見えてこない、住民の方のやる気も出てこないと思う。小さな取組・小さな成功例でも構わないので、できるものから実行していただきたい。具体化させること、「こうやったら地域が元気になる」というものがあることが望ましい。
- 子どもたちも卒業・進学している。職員も約半数が入れ替わっている。教育の現場のことを考えると、早急に進めないといとどんどん失われてしまう。よろしく願いたい。
- 何を急ぐか・急がないかについてもメリハリをつけて、事務局には整理をお願いしたい。

検討・推進委員会の今後の流れ（議事次第 6）

- 事務局より、資料4に沿って説明

事務連絡（議事次第 7）

- 事務局より、今後の日程について、下記の内容を案内
 - 第3回委員会については、平成30年3月上旬～中旬に開催予定

以上